

図 - 1 東京湾におけるDOの分布(2000～2002年度 下層・夏季3ヵ年平均)
 (注) 括弧内の値は夏季3ヵ年のうちの最低値を示す。
 出典: 広域総合水質調査

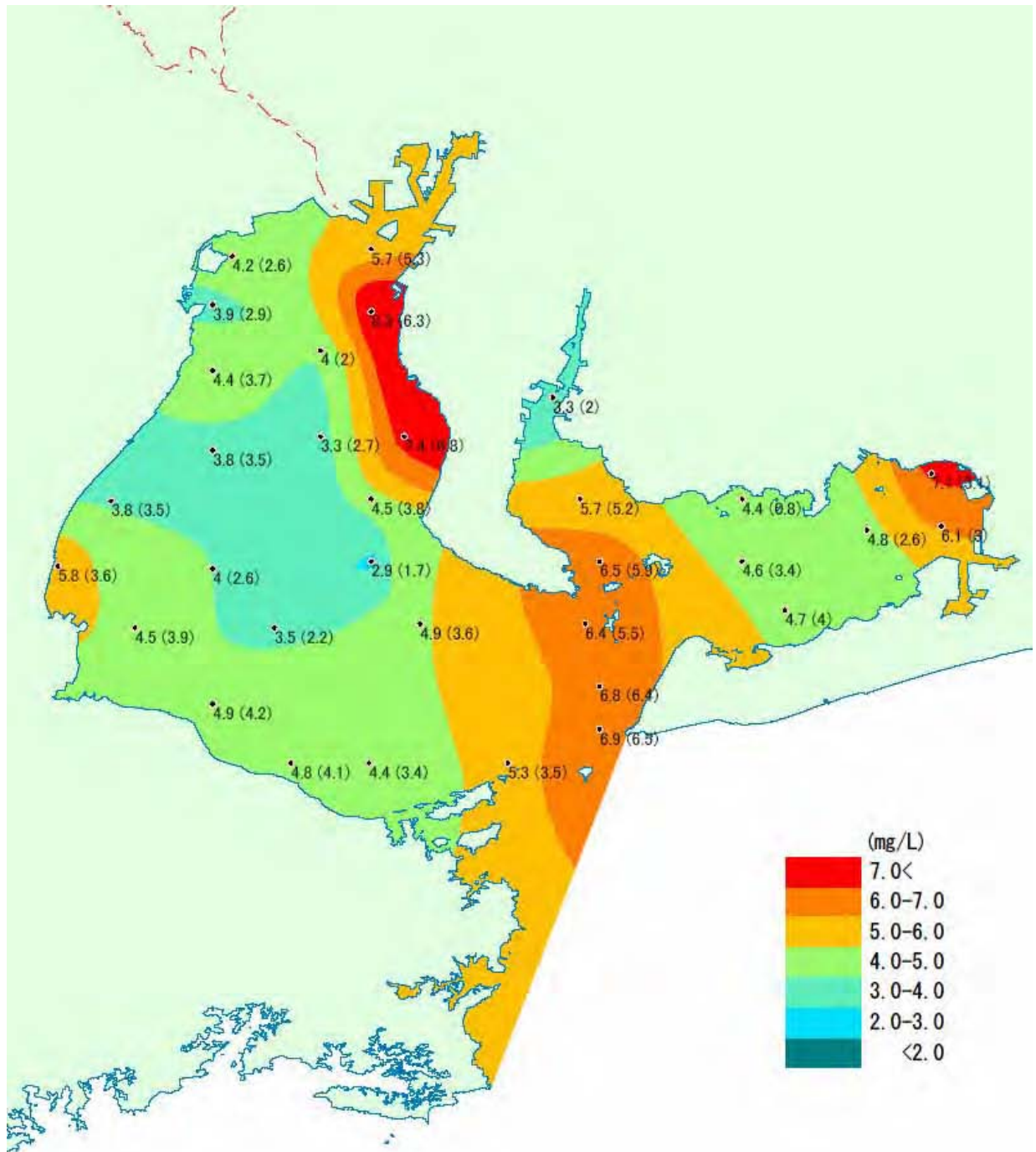


図 - 2 伊勢湾におけるDOの分布(2000～2002年度 下層・夏季3ヵ年平均)

(注)括弧内の値は夏季3ヵ年のうちの最低値を示す。

出典:広域総合水質調査

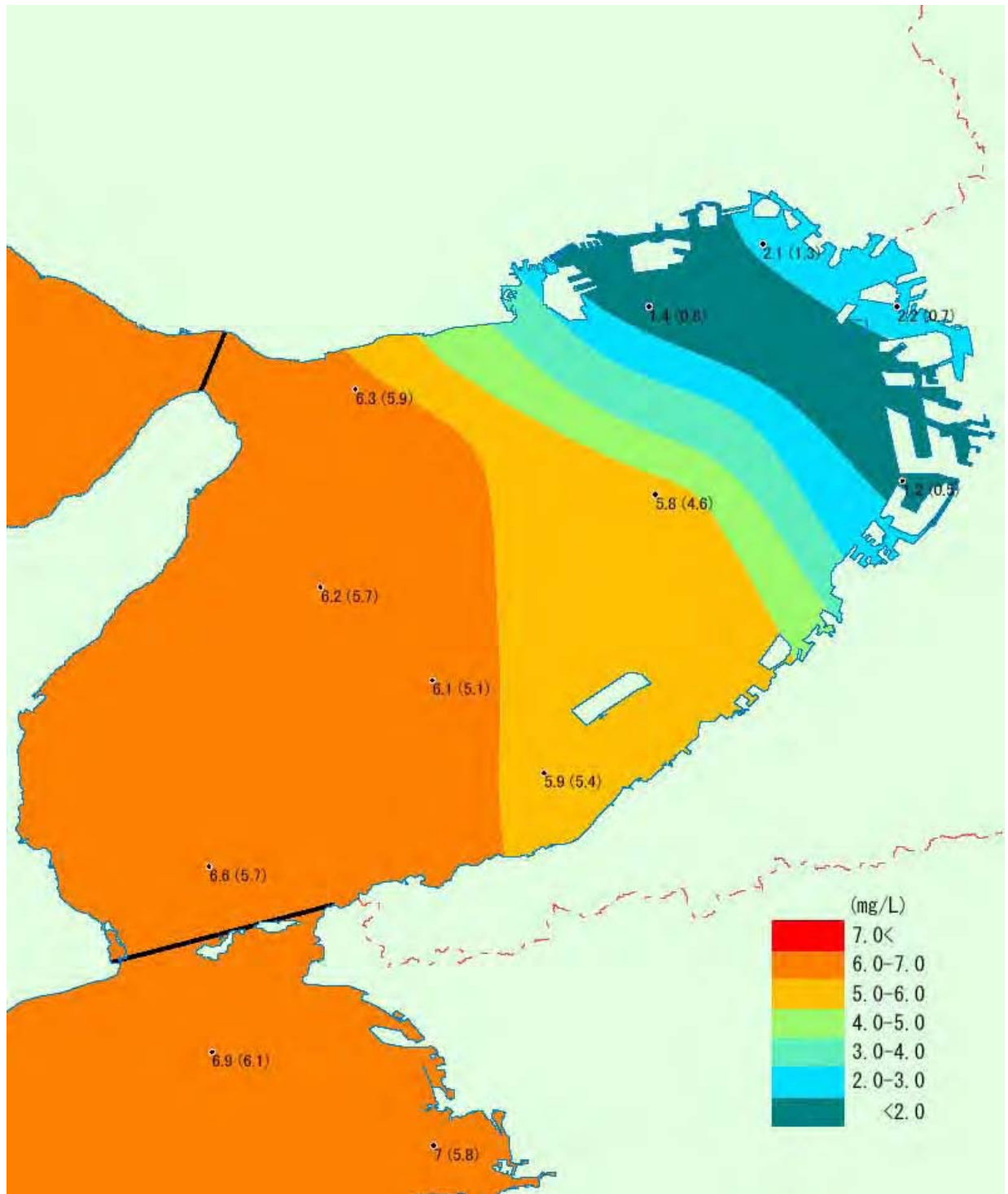


図 - 3 大阪湾におけるDOの分布(2000～2002年度 下層・夏季3ヵ年平均)


(注)括弧内の値は夏季3ヵ年のうちの最低値を示す。

出典:広域総合水質調査

海域の窒素及び燐に係る環境基準等の設定に関する参考資料
(平成5年6月)
(抄)

(3) 生物生息環境保全

① 内湾生物と溶存酸素の関係

( 致死限界値、  影響発生限界値)

生物名	溶存酸素 (mg/l)									文献
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
魚類	クロダイ(種魚)*	-----								1
	カタクチイワシ*		-----							1, 4
	サバ*									[採餌率減少] 4
	ハマチ*									[採餌率急激な] 4
	ボラ*									減少 [採餌率減少] 4
	スジハセ*									----- 3
	カワハギ*									----- 3
貝類	マガキ(成貝)*									----- 2
	アカガイ(成貝)*									----- 2, 3
	ホタテガイ(種・成貝)*									----- 2
	アコヤガイ(産卵期)*									----- 1
	ハマグリ(成貝)*									----- 2
	チョウセンハマグリ(成貝)*									----- 2
	ヤマトシジミ(成貝)*									----- 2
	バイ*									----- 3
	ホトトギス									----- 3
	ゴイサキガイ									----- 3
	イヨスグレ									----- 3
	チョノハナガイ									----- 3
キセワタ									----- 3	
その他の	クルマエビ(成体)*									----- 2
	ホッコリエビ(成体)*									----- 2
	シャコ*									----- 3
	ガザミ(幼生)*									----- 2
	イシガニ*									----- 3
	バフンウニ(成体)*									----- 2
	サンショウウニ*									----- 3
	スナヒトデ									----- 3
	マダコ(成体)*									----- 2
	ゴカイ									----- 3
	イソゴカイ									----- 5

- (注1) 文献番号 1. 水産生物生態資料集(日本水産資源保護協会、1981)
2. 沿岸漁業設備開発事業構造物設計指針(日本水産資源保護協会、1978)
3. 石尾(1982)
4. 環境影響評価技術資料集(環境庁、1978)
5. 水産生物生態資料集(続)(日本水産資源保護協会、1983)

(注2)*: 水産生物

表 - 1 各湾の状況(COD)

	COD 環境基準達成率 (平成15年度)	COD のレベル	貧酸素水塊
東京湾	A 類型 50 % (1/2) B 類型 37.5% (3/8) C 類型 100 % (9/9) 合計 68.4%(13/19)	最も高いレベルであるが、低下傾向。	発生
伊勢湾	A 類型 0 % (0/4) B 類型 33.3% (2/6) C 類型 100 % (6/6) 合計 50% (8/16)	東京湾、大阪湾に次いで高いレベルで横ばい(外洋CODの上昇分を補正すると、三河湾以外はわずかに低下傾向)。	発生
大阪湾	A 類型 0 % (0/3) B 類型 50 % (1/2) C 類型 100 % (7/7) 合計 66.7%(8/12)	東京湾に次いで高いレベルであるが、低下傾向。	発生
瀬戸内海 (大阪湾を除く。)	A 類型 33.3% (17/51) B 類型 80.4% (45/56) C 類型 100 % (43/43) 合計 70.0%(105/150)	比較的低いレベルで横ばい(外洋CODの上昇分を補正すると、わずかに低下傾向)。ただし、一部の湾灘ではCODが上昇傾向。	少ない(発生しているとしても、局所的かつ短期的)

表 - 2 各湾の状況(窒素、磷)

	窒素、磷の環境基準達成率 (平成15年度)	窒素、磷の濃度レベル	貧酸素水塊	赤潮
東京湾	類型 0% (0/1) 類型 0% (0/1) 類型 75% (3/4) 合計 50% (3/6)	最も高いレベルであるが、 低下傾向	発生	発生件数は横ばい。
伊勢湾	類型 0% (0/2) 類型 50% (1/2) 類型 100% (3/3) 合計 57.1% (4/7)	東京湾、大阪湾に次いで高 いレベル。	発生	発生件数は長期的に減少傾 向。近年は横ばい。
大阪湾	類型 100% (1/1) 類型 100% (1/1) 類型 100% (1/1) 合計 100% (3/3)	東京湾に次いで高いレベル であるが、低下傾向。	発生	瀬戸内海の他の湾灘に比較 して、発生件数、発生面積 とも多い。
瀬戸内海 (大阪湾を除 く。)	類型 100% (1/1) 類型 95.1%(39/41) 類型 100% (12/12) 類型 100% (3/3) 合計 96.5%(55/57)	比較的低いレベル。 平成11年度以降は低下傾 向。	少ない(発生していると しても、局所的かつ短期 的)	発生件数は長期的に減少傾 向。近年は横ばい。

窒素及び磷の発生負荷量に対する漁業による回収率の推移

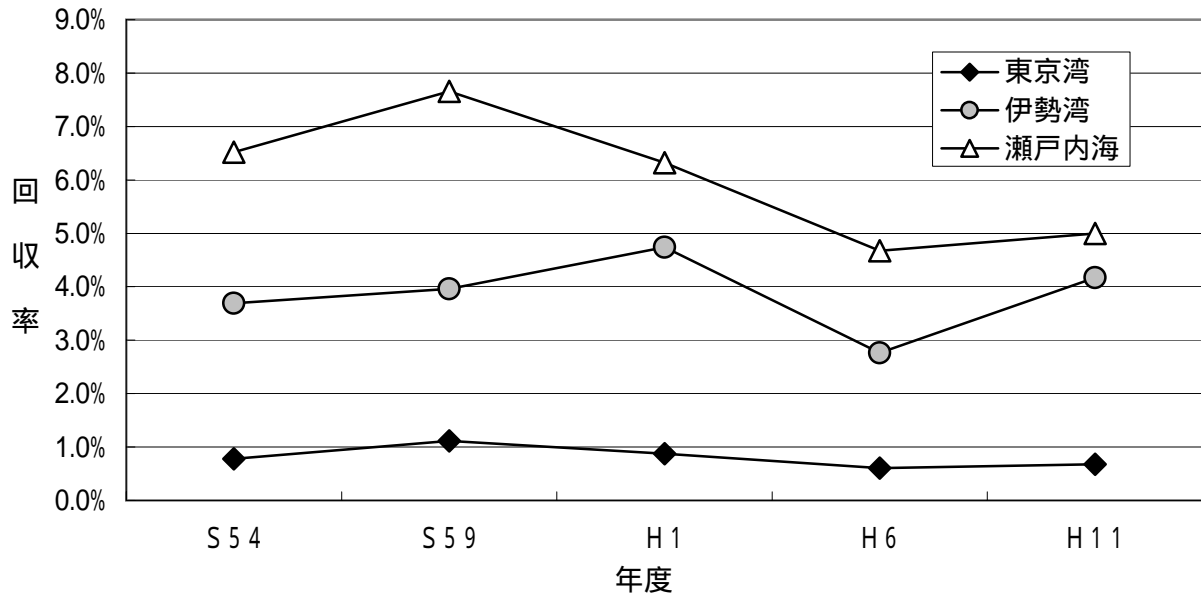


図 - 1 窒素の回収率の推移

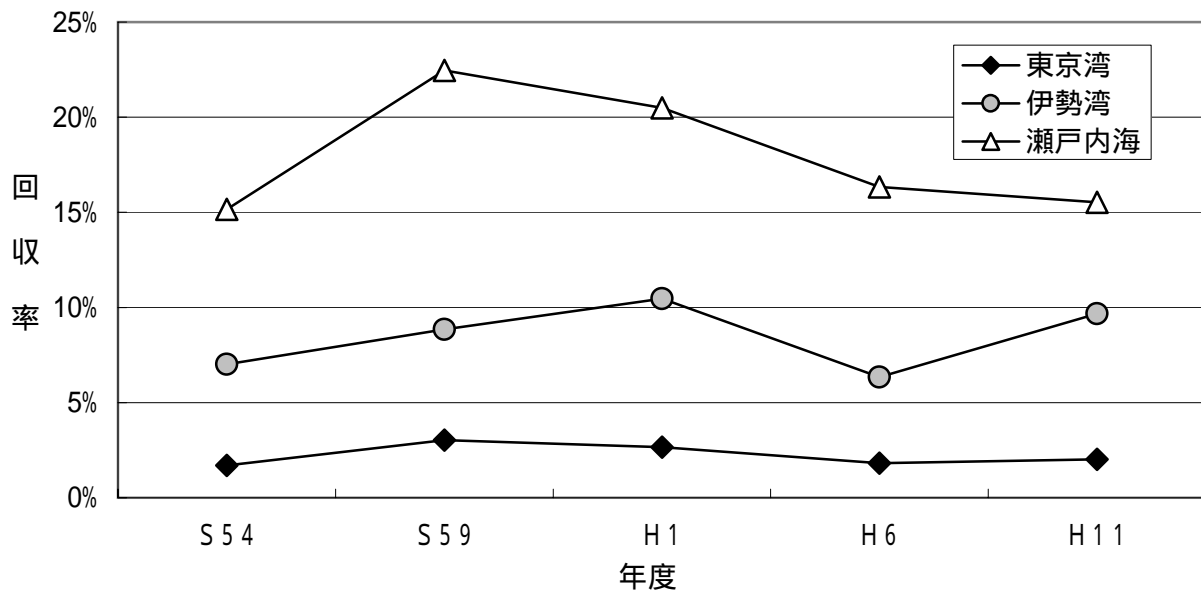


図 - 2 磷の回収率の推移

出典: 環境省調べ